

公共空間における空間評価と空間特性の相関性

—地方都市の中心市街地における公共空間の  
空間構成と利活用の在り方に関する研究 (その2) —

正会員 ○村上大昂\* 同 姫野由香\*\*  
同 鄒大雪\* 同 成清大地\*

7.都市計画 c.商業地・商業空間 d.中心市街地  
e.都市再生 ヒアリング調査 相関分析

1 研究の背景と目的

前稿(その1)では、中心市街地の公共空間を、用途ごとに分類した上で、それぞれの「管理主体」と「イベント開催数」の傾向を明らかにした。そこで本稿(その2)では、利用者側から見た公共空間の利活用について検討するために、各公共空間の利用者を対象にヒアリング調査を行った。調査では、利用者の属性・利用実態・公共空間の評価について把握した。さらに、調査結果と前稿(その1)で得られた空間特性<sup>注1)</sup>との関係性を考察することで、利用者の空間評価につながる空間特性明らかにすることを目的とする。

2 研究の方法

公共空間利用者の属性・利用実態・公共空間の評価について把握するために、ヒアリング調査を実施する。結果より、属性・利用実態・公共空間の評価等の特徴を用途ごとに分類し整理する。さらに、前稿(その1)で明らかとなった、空間特性と利用者の公共空間に対する評価の相関分析を行い、両者の関係性を考察する。

3 ヒアリング調査結果からみた公共空間の特徴

以下にヒアリング調査の概要について示す(表1)。ヒアリング調査は、平成27年11月9日から12月6日の期間で行われた。全回答数は635件であり、利用者の属性は、中心市街地内に居住している利用者が約3割、中心市街地以外の大分市内に居住している利用者が約5割と

なり、約7割が大分市内に住む利用者であった。

3-1 公共空間における利用実態の特徴

利用実態について利用目的・利用前後の居場所・利用交通機関の傾向を考察する(図1)。全体の傾向として、利用目的は公共空間の用途ごとに異なり、利用前後の居場所は全ての公共空間で3割以上が「家」であった。また、利用交通機関は4割以上が「徒歩」である。このことから、各公共空間で用途ごとに利用目的は異なるが、徒歩圏内の住宅から訪れる人が多いということがわかる。

3-2 相関分析による空間特性と空間評価の関係性

利用者による公共空間の評価をグラフに示す(図2)。全体の傾向として、『2-1.自然を感じる』、『2-3.開放的に感じる』、『2-4.賑やかに感じる』の3項目は各公共空間で、評価に大きなバラつきがみられる。3項目に関して、評価の絶対値が大きい公共空間は、「都市計画道路」「駅前広場+シンボルロード」「公共施設のオープンスペース」である。後者は対象数が1つであるため、評価が公共施設の性格に大きく依存する。そこで、「公共施設のオープンスペース」を除いた「都市計画道路」と「駅前広場+シンボルロード」について考察する。「都市計画道路」は、「人工的に感じる」が1.48と、「賑やかに感じる」が0.85であり、人工的で賑やかな空間という評価であることがわかった。「駅前広場+シンボルロード」は「開放的に感じる」が最も高い1.60であり、開放的な空間という評価であることがわかった。このことから、特に空間の捉え方に関する評価は、各公共空間で、用途ごとに大きく異なることが確認できた。

次に、ヒアリング調査で得られた利用者の公共空間に対する評価と空間特性の相関関係について分析<sup>注2)</sup>する(表2)。有意水準0.05以下の項目は、『2-1.自然を感じる』『2-3.開放的に感じる』『2-4.賑やかに感じる』『2-8.総

表1 ヒアリング調査の概要

調査方法	利用者へのヒアリング調査	属性						備考
		性別	年齢		居住地			
調査内容	1.個人属性							平日・休日の両方で調査を実施した。  調査員  調査は各公共空間に2名の調査員を基本とした。
	2.公共空間の利用目的	男性 49%	20歳以下 18%	1.大分市中心市街地 27%				
	3.利用前後の居場所	女性 51%	20歳代 15%	2.大分市(上記以外) 49%				
	4.利用交通機関		30歳代 19%	3.別府市 5%				
	5.公共空間に対する要望		40歳代 14%	4.由布市 2%				
	6.公共空間の特性について		50歳代 11%	5.臼杵市 5%				
	7.総合評価(5段階評価)		60歳代 13%	6.豊後大野 1%				
調査期間	平成27年11月9日~12月6日	70歳代 7%	7.竹田市 0%					
回答数	635件	80歳以上 3%	8.その他 11%					

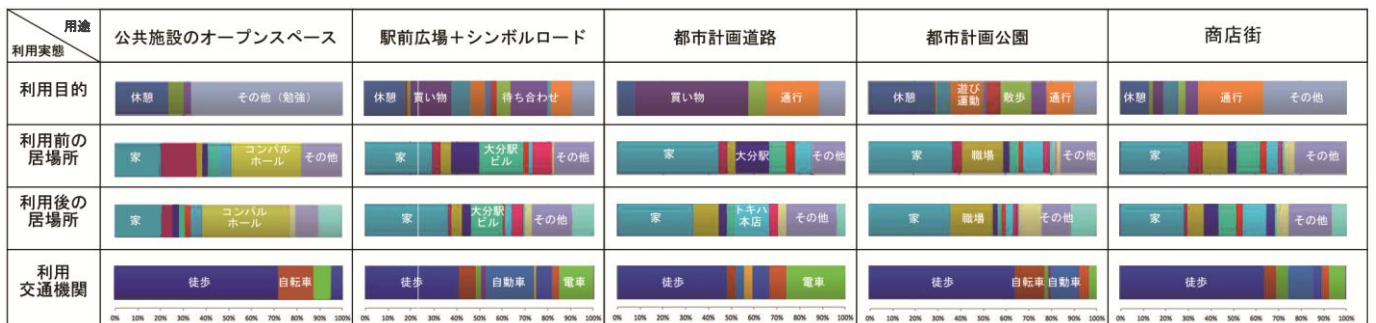


図1 公共空間の利用実態

合的な満足度』の4項目に対し空間特性と相関性がみとめられた。

『2-1.自然を感じる』と「緑の面積の割合」との相関係数は0.53, 「H:Dの角度」が-0.61, 「歩行者通行量」が0.46, 「路線価」が-0.50, 「イベント実施件数」は-0.49と相関がみられることがわかる。このことから、緑の面積の割合が多く、H:Dの角度が低い空間ほど、人は自然を感じる傾向にあるといえる。一方で、人工的な空間とを感じる公共空間の方が、歩行者通行量とイベント実施件数が多く、路線価が高い傾向にある(負の相関)。

『2-3.開放的に感じる』と「道路との接道幅の割合」との相関係数は0.55である。このことから、敷地境界に遮蔽物が少なく道路との接道幅が広いほど、人は開放的に感じる傾向にあるといえる。

『2-4.賑やかに感じる』と「路線価」との相関係数は0.48であることから、「歩行者通行量」と「路線価」が高いほど、賑やかに感じる空間である傾向にある。最後に、『2-8.総合的な満足度』と「緑の面積の割合」との相関係数は0.53であり、緑の多い空間ほど、公共空間の総合的な満足度は高い傾向にあるといえる。

#### 4 総括

本研究では、大分市中心市街地内の、公共空間に関する

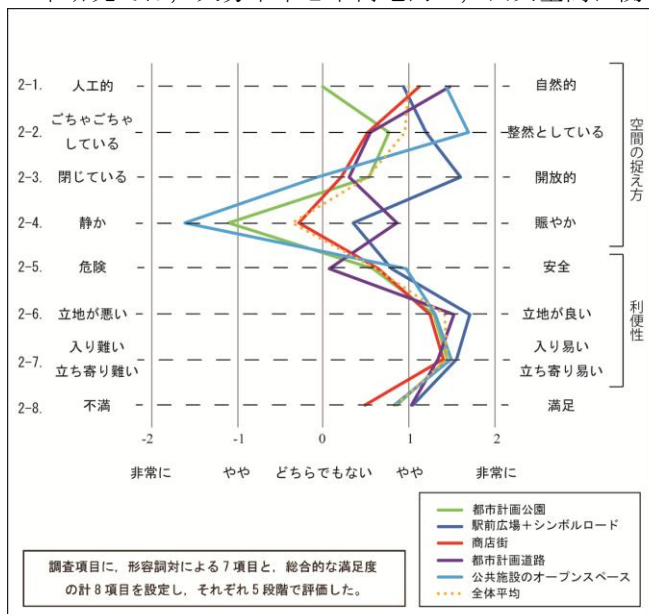


図2 利用者からみた公共空間の評価

表2 空間評価と空間特性の相関性

空間評価	面積(m <sup>2</sup> )		緑の面積の割合		H:Dの角度		歩行者通行量		27年度路線価		道路との接道幅の割合		イベント実施件数	
	係数	水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準
2-1. 自然を感じる	0.35	0.16	0.53	0.02	-0.61	0.01	-0.46	0.05	-0.50	0.03	-0.26	0.31	-0.49	0.04
2-2. 整然としている	0.17	0.49	-0.06	0.81	-0.12	0.63	-0.14	0.58	-0.11	0.66	0.14	0.58	-0.15	0.55
2-3. 開放的に感じる	0.37	0.13	0.11	0.65	-0.32	0.19	0.34	0.17	0.25	0.31	0.55	0.02	0.16	0.52
2-4. 賑やかに感じる	0.03	0.91	-0.07	0.79	-0.06	0.81	0.43	0.07	0.48	0.04	0.18	0.50	0.25	0.32
2-5. 車・自転車との関係が安全	0.22	0.38	0.20	0.42	0.04	0.87	0.05	0.83	-0.10	0.71	-0.01	0.98	0.04	0.89
2-6. 立地が良い	0.15	0.55	0.30	0.23	-0.09	0.71	0.16	0.52	0.07	0.77	0.23	0.38	0.07	0.77
2-7. 立ち寄りやすい	0.02	0.92	0.12	0.65	0.12	0.64	0.08	0.74	0.05	0.84	0.17	0.51	0.06	0.80
2-8. 満足度	0.27	0.27	0.53	0.02	-0.26	0.30	-0.16	0.54	-0.12	0.64	0.32	0.21	-0.26	0.30

片側検定

両側検定

る用途、空間特性、利用者に対するヒアリング調査のデータをもとに、利活用の促進が図られている公共空間の特徴を考察した。

ヒアリング調査の結果より、公共空間の利用者は、約7割が大分市内に住む利用者であることがわかった。また、各公共空間で用途ごとに利用目的は異なるが、徒歩圏内の住宅から訪れる人が多いということがわかった。

利用者による公共空間の評価では、全体の傾向として、『2-1.自然を感じる』、『2-3.開放的に感じる』、『2-4.賑やかに感じる』の3項目は、用途ごとに評価にバラつきがみられる。なかでも「都市計画道路」は、人工的で賑やかな空間という評価であり、「駅前広場+シンボルロード」は開放的な空間という評価であった。これらのことより、中心市街地の公共空間は『2-5.安全性』、『2-6.立地の良さ』、『2-7.立ち寄り易さ』の利便性に関する評価に大きな差異は見られないが、空間の捉え方に関する評価は、用途ごとに大きく異なることがわかった。

相関分析の結果より、『2-1.自然を感じる』、『2-3.開放的に感じる』、『2-4.賑やかに感じる』、『2-8.総合的な満足度』の4つの評価で相関性がみられる空間特性があることがわかり、以下の4点が明らかとなった。

1. 緑の面積の割合が多く、H:Dの角度が低い空間ほど、人は自然を感じる傾向にあるといえる。一方で、人工的な空間とを感じる公共空間の方が、歩行者通行量と路線価が高く、イベント実施件数が多い傾向にある。
2. 敷地境界に遮蔽物が少なく道路との接道幅が広いほど、人は開放的に感じる傾向にある。
3. 「歩行者通行量」と「路線価」が高いほど、賑やかに感じる空間である傾向にある。
4. 緑の多い空間ほど、公共空間の総合的な満足度は高い傾向にある。

#### 【補注】

注1) 空間特性は「イベント件数」「面積」「緑の面積の割合」「H:Dの角度」「歩行者通行量」「27年度路線価」「道路との接道幅の割合」の7項目を設定し、調査した。

注2) 本研究は、ピアソンの積率相関係数を用い、相関分析を行った。

#### 【参考文献】

- 1) 佐々木悟 中心市街地商店街の活性化と買物の利便性-旭川市中心市街地「平和通り買い物公園商店街」来街者アンケートを通して、旭川大学紀要 2006年
- 2) 大分市商工労政課 大分市中心市街地活性化基本計画書 2013年
- 3) 大分市商工労政課 大分市中心市街地活性化基本計画書 2013年

\*大分大学大学院工学研究科博士前期課程

\*\*大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

\*Graduate Student, Oita Univ.

\*\*Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng